

「女の子なんだから。」

高三

「女の子なんだから。」

きっとその一言はその人なりの気遣いなのだろう。けれど、私は嬉しくない。それは決めつけであり、偏見だからだ。けれど、男の人とは一緒にできないのだろう。体格や身体能力など、男と女では異なる部分があるからだ。けれどそれが何だというのか。異なる部分があるのは事実であり、仕方がないことだ。だからと言って、他人がその人の在り方を決めるといえるのは勝手に過ぎるようには私と思う。自分を決めるのは、いつだって自分であることが望ましい。だからこそ、「女の子なんだから。」と言わないでほしい。

「女の子なんだから。」

その一言で物事を諦めてはいないか。女の子だから自分には無理だと思ったことはないか。それは物事から逃げるための言い訳だ。けれどできないことはある。なんでもできる完璧な人間は存在しないのだから、その一言が実際に逃げるための

言い訳だったとしても気に病むことはない。だからと言って、女を理由にしてよいわけでもない。自分自身の在り方を定めるのはよいことだ。けれどそれが自分の挑戦への妨げになってしまつては意味がない。「女の子なんだから。」と言い訳し、物事から逃げてしまふ。実際に権利や選択肢を奪っているのは自分自身なのではないだろうか。だからこそ「女の子なんだから。」と言わないでほしい。

「女の子なんだから。」

それは偏見で、決めつけで、諦めの一言だ。その一言をとがめる人は、ごく少数であると思う。しかし、その言葉で選択肢を奪われ、意見を押し付けられてしまっている人が、少なからず存在しているのだ。同じように、そのことを声に出し、訴えている者も少ない。だからこそ、私も、あなたも、少しでも傷つけられる人を減らすために、考えを改め、この言葉、または類似した言葉を言わぬよう努力すべきではないか。もう一度考えてほしい。

「女の子なんだから。」